勞働者教育資料
No. 3

新成人勞働者教育論

協調會

始

凡例

一、本篇は世界成人教育協會發行『パンフレット』に掲載せられたる『マンチエスター』大學總長『エル、ピー、ジョークス』博士の、一九二五年五月十五日『リヴアープル』大學に開かれたる第一回世界聯合大學講演會に於ける講演『成人教育と藝術』"Adult Education and the Arts," the first World association University Lecture delivered in the University of Liverpool on May 15th. 1925, by Dr. L. P. Joks, Principal of Manchester College, Oxford. を本會教務課長惣田太郎氏の抄譯したるものである。

二、原著は成人勞働者教育に關し『人生の爲の教育』を高潮して、智識と實行との合一、人生と藝術との相即不離に及び生活愛を鼓吹して産業文明の改造を力説し清新なる勞働者教育意見を提唱して、參考に資する所尠なからざるものがあると思ふ。

大正十五年三月

協調會教務課

寄贈本
大正
15. 4. 7.
寄贈

290-46

目次

一　社會改善策の發見……一
二　協同精神の源泉……二
三　兒童教育より成人教育へ……四
四　袋小路式教育……七
五　人生の爲の教育……八
六　二種の人生觀……八
七　人生の旅……一〇
八　智識より熟練へ……一一
九　實行的教育……一三
一〇　新時代への準備……一五

一一　生活即藝術……一七
一二　見直した產業文明……一九
一三　生活愛の鼓吹……二二
一四　生活の藝術化……二三
一五　新成人勞働者敎育の基調……二四

新成人勞働者敎育論

(一)社會改善策の發見

成人敎育が今日迄に成し遂げたる事項は、眞に人をして驚嘆激勵に堪へざらしむるものであつて、此事業程人類の文明に對して深甚の影響を與へるものはあるまい。即ち其は或る程度まで豫測しうべき直接の結果となつて現はるるのみならず、尙吾人の到底思ひも寄らない間接の結果となつて現はるゝものである。故に吾人は苟も成人敎育が充分に擴張發達を遂げたる曉には、敎育組織全體に有利なる影響を與へて之を改善し、又今日より全く豫想し難き方法に依つて、經濟問題、政治問題を始め、國際問題に至るまで、吾人日常の直接活動の範圍を超越して橫たはつて居る幾多の陰慘にして厄介なる問題の解決に資すべきものなることを斷言して憚らざ

るものである。余は屢々是等の產業問題を考察するに方り、こは吾人の現に抱懷する如き不完全にして淺薄なる智識を以てしては、到底眞の解決に導く能はざるものであつて、實は寧ろ何人も現に注目して居らない意外の方面から、其の解決の道が發見されるであらうことを信じて居る。從つて其の現はるゝや突如として恰も暗夜の盜人の如くに感ぜられ、爲めに世人は其の不意に驚いて、思はず『オヤ此處へ出た、オヤ彼處へ出た』と叫ぶことがあるかも知れない。而して我成人敎育は畢竟是等の思ひも寄らぬ解決方案の生れ來るべき方面の開拓に迄、其の歩を進めんことを目的とするものである。

(二)協同精神の源泉

余は曾て一夕有名なる民謠演奏會を聽きて、是等の聽衆中の誰人かが、それとは氣付かぬ乍らも、此の音樂こそ實に自然の間に調和、好感及び人類團體の親密なる

協同精神を促進する有力なる方法であると悟るものがあるかも知れないといふ考がチラと腦裡に浮んだことがある。成人敎育は恰も之に似寄つた而かも更に大なる實例を示すものであつて、卽ち敎育直接の結果其物よりも、寧ろ將來に於て偉大なる結果を生み出す原因となり、之に依て社會の總べての階級の人々が、共通の興味と活動の下に一致する新らしい基礎を作り出すであらう。蓋し最初此の共通の興味は智識追求の方面に現はるゝが、やがて次第に擴張して人類生活に價値と尊嚴と優越とを與ふる各種の方面の追求となるであらう。而して又此の運動は始めは地方的國民的に限局せらるゝ性質を有するも、時の進むにつれて遂には國民相互の間を隔つる無意味の境界を超越し、國際協調を圖るべきそれ〴〵の方法を發見し、緊密なる國際聯盟の根柢を作り。以て戰爭廢止の消極目的を達成するのみならず、進んで人類全體の敎育を實行する積極目的を貫徹するに至るであらう。されば成人敎育が今日迄擧げ來れる功績は實に顯著なるものであるけれども、之を將來の完成に期待す

べき結果に比較すれば、誠に些々たるものに過ぎないと謂はねばならぬ。勿論此の運動の先輩達例へば、『マンスブリッヂ』氏の如きは、偉大なる先驅者として、永く後世に銘記せらるべきものであるが、よし其の既に顯はしたる効果は、如何に善美を盡せるものなりとも、そは唯より善き境涯を目指して進み行く人生行路の一里塚に外ならず。畢竟成人教育運動は今尚搖籃時代に在るものと謂つてもよいと思ふ。

(三)兒童教育より成人教育へ

『成人』と『教育』との二語が始めて結合されたときは、實に教育史上の一新時代を畫したるものであつて、之よりして教育の意味を廣義に解し、教育は學校在學中の數年間の事に止まるといふ舊い見解が捨てられて、寧ろ吾人が最早何物をも學ぶことの出來なくなつた死の瞬間に至るまで、生命のあらん限り永續せらるべき事業であると言ふ新觀念が起り初めたのである。而して斯く教育に費さるべき時期の延長

は、自然教育其物の意義に變化を起すに至つた。蓋し成人教育は其の基礎たる兒童教育が成人教育の爲めに準備し且之に導くにあらざれば、其の充分なる發達を期すべからざるものであつて、兩者は等しく同一の歸着點を目標とし、始めより互に協力すべく、其の間に何等の矛盾撞着があつてはならぬ。然らば成人學校は如何なる勢力を兒童學校に及ぼすかとは次に起る問題であるが、こは少しく注意して觀察すれば、今日早く既に其の影響を働きかけつゝあることを容易に悟ることが出來る。即ち成人學校が兒童學校に對して希望せんとする所のものは、例へば次に擧ぐるが如き事項である。

『兒童に與ふるに其の成人となるに及んでも引續き之を追求し且發展せしむべき性質の教育を以てせよ。兒童が學校を退けば直に中絶する樣な、實社會に出でては通用の出來ぬ樣な、又直ぐに忘れられ若しくは頓着されなくなる樣な教材や教法を墨守せずして、寧ろ永遠に繼續されうべき而して兒童が他日成人學校の門に

入り來る時に、成人教育者が其儘之を受繼ぎ之を開展する教育に着手しうべき方法に依て、兒童の心身を訓練せんことを努めよ。』

是れ實に吾人が從來に於ける教育の不滿に對する反動より、全體としての教育に就きて期待する點であつて、今や既に微力乍らも其の活動の萠芽を現はし、將來益々有効の運動とならんとして居る。思ふに兒童學校と成人學校とは、有力なる協同者であつて、成人教育者は兒童教育が常に同一の問題、方法を繰返し乍ら、而かも必要に迫られて屢々何等か新機軸を編み出さんと焦慮し、後日成人の興味、成人生活の狀態に一層適合しさうな方案を漁りつゝ、遂に其の目的を達する能はずして、其の儘後に殘されたる欠陷を拾ひ上げて之を補正しなければならぬ。併しやがては兒童教育の目的と成人教育の目的とは、次第に接近して、成人教育者の影響は益々有力となり、兒童教育者をして教育は人の全生活を通じて、絶えず發達する方向を指して進むべきものなることに目覺めしめて、其の從來取り來れる兒童訓練の方法に一大變革を起すに至るであらう。

(四)袋小路式教育

抑々現今教育制度の大なる欠陷の一は、其の教授の多くが徒らに男女兒童を袋小路に行き詰らしむるに止まるが如きものであつて、それ以上に新境地を開拓するに足る何物をも與へない傾があるといふことである。其の結果兒童は眞に人生の本義を解し之を近代的生活に適應せしめて、着々進歩發展の域に至ることが出來ない樣になつた。於是乎動もすれば教育を以て閑暇又は非番の際の時間潰しに都合よき一種の飾りものであり、餘分の贅澤品たるに過ぎない位に考へる惡習慣を釀成するに至つたのである。

(五)人生の爲めの教育

世界成人教育協會の主張する教育の觀念は全く之と異なり、教育は單に吾人の閑暇時の飾り物となり娯樂となるに止まるものにあらずして、之を吾人日常の作業生活に織込むことの出來るものでなければならぬと說いてゐる。思ふに將來に於ては必ずや勞働は筋肉作業のみならず社會生活の維持發展に貢献する各種の作業を意味するものとして、社會の勞働と社會の教育とが、互に緊密に結合せられ、玆に『教育と勞働の結婚』となつて、吾人平素の念願たる最大の社會改善の道が開かれ、天使は降りて此の聖典を壽ぎ、『光明の神』亦來つて此の新郎新婦を祝福するであらう。『人生の爲めの教育』とは卽ち此の謂に外ならない。

(六)二種の人生觀

『人生の爲めの教育』！　此語は吾人が現時禮讃しつゝある成人教育運動の標語として、屢々耳にしたる麗はしい卓絕した言葉であつて、何人と雖も此の教育こそ眞に價値ある唯一の種類なることを否定するものはあるまい。然らば人生とは何ぞや此の問題に對して滿足な最後の解答を與ふることは頗る困難であつて、吾人が從來旣に有するよりも進んで一層深き教養を經たる後でなければならぬと思ふ。左に少しく之を考察して見よう。

廣くいへば人生の本義につきては、二つの見解があつて、其の何れもが全然眞實とも言はれないし又謬まれりともいへない。其の第一は、人生の初頭に立て前途を望む時に取る意見卽ち少年時代の見解であり、第二は、人生の終末に至つて過去を顧みる時に懷く意見、卽ち老年時代の見解である。此の如く少年時代の人生觀と老年時代のそれとは、全然其の立場を異にするが爲めに、自ら人生の是非に對する評價を異にし、終に人をして『人生』不可解の感あらしむるに至るのである。

(七)人生の旅

『トーマス、カーライル』は、『人生は二つの沈默せる永遠(生と死)の間に於ける暫しの行脚である』とて、古來何人も未だ曾て言及せざりし眞理を喝破して居るが、然らば『人生の爲めの敎育』に於て、目標として居るのは如何なる時機の敎育であるか。其の所謂人生とは、最初の少年時代の戸口より前途を望む時に考へらるゝものなりや、將た老後の死際より過去を回想する場合の見解なりや、否々二者何れにも偏することなく、『二つの沈默せる生と死の永遠の間に於ける行脚の爲めの敎育』でなければならぬ。從つて其の取扱ふ問題の範圍は相當に廣汎に渉りて、曾に所謂『永遠と永遠との間の暫しの行脚』卽ち現實の人生生活につきてのみならず、更に其の前後兩端を爲す『生』と『死』の二つの沈默の永遠其物につきても充分の考察を要すべきものである。蓋し東の間の吾人の生涯は、畢竟悠久の永遠より出でゝ再び無限の永遠に歸するものなるが故である。されば成人敎育はやがて此問題の考察にまでも踏み込まねばならぬと思ふ。

(八)智識より熟練へ

兒童敎育は自然其立場を最初の戸口たる少年時代に置く譯であるけれ共、成人敎育は何時かは人が壯年期に及んで精神界の直面すべき深酷なる『人生』の問題の研究を其課程中に加ふることゝなるであらう。果して然らば成人敎育は決して彼の所謂職業敎育偏重に墮することなく、寧ろ『人生の爲の敎育』を强調すればする程そは單に物質科學の追究のみに止まらず、更に各方面より人間精神を開發すべき智識と熟練とを得しめんが爲めに、一層熱心に努力するものなることを信ぜざるを得ない。

こゝに所謂智識と熟練とは、極めて密接の關係を有する觀念であつて、實は同一の事物の發達の程度を異にするに從つて名付けられたる二つの名稱に過ぎない。元來智識は實行の經驗が記憶せられ蓄積せられて、更に將來の實行を生み出さんとするものであるから、吾人が事物を知得する方面より見て智識と呼ぶものは、之を實行

の方面より見れば熟練となる。從て熟練とは單に行動に於ける智識であり、智識は行動に於ける熟練である。されば熟練に迄發達せざる智識は、不完全なるものであつて、苟くも智識にして單に所謂知得する階段で行き止まりとなつて、人生に有用なる結果を生み出すべく之を實行する階段に迄展開することの出來ないものであるならば、そは吾人の生活に對して何等の價値なきものであつて、眞に智識といはるべきものなりや否や頗る疑なきを得ない。卽ち現在若くは將來に於て實行の出來ない樣な、吾人の手と頭腦の何れかに適當の熟練を導き出し得ない樣な、又單に理論を操るに止まつて、之を實行に移し得べき見込も可能性をも與へない樣な空疎な智識は畢竟眞實を缺けるものであつて、之を啓發するの價値はないものと思ふ。

(九)實行的教育

吾人が『人生の爲の教育』を主張するの趣旨は、實に前述の點に在る。吾人は實行

し得べき、利用厚生に資すべき智識を求める。成人男女が依て以て賢明なる生活の道を發見するに資すべき教育、而も之が爲に其の目的を向上せしむるとも、世人の非難するが如く之を低下せしむることなき教育を求めて居る。抑々藝術は畢竟行動に於ける智識に過ぎない。而して最大最貴の藝術卽ち社會萬衆が認めて以て至醇至高となす藝術は、實に賢明なる生活の道其物に外ならない。吾にこの最高の藝術に至るべき智識を與へよ。吾に此の『人生の爲の教育』を與へよ。

此の如く智識を廣義に解して、人間及科學、卽ち吾人の生息する宇宙に關し且之を實際生活に利用する人間其物の性質に關して學びうべき總てを包含するものとし又熟練を最も高尙なる意味に考へて、凡そ人類社會生活に於ける義務と關係とを適當に處理する指導たるものとする場合に於て、始めて成人教育の目的となり、其の總ての活動の基調となるものは、所謂智識を移して之を熟練に導き、かくて從來教化が實益なき裝飾品たるに過ぎざりし弊を除き、學修に無用の部面を含むことなく

總べての人々を引上げて世界の活舞臺に立ち、高尚にして豐富なる生活を演ずべき地位と活用とを得しむるものたるを斷言することが出來るのではあるまいか。要するに吾人の要求するものは、徹頭徹尾實行的敎育である。卽ち獨り日常の生業に從事する際に於ける行動に活用するのみならず、更に行動其物の範圍を廣めて、現在抑壓拘束せられつゝある。男女の人々の諸活動能力が、それ〳〵適當の仕事に從ふべく解放せられ、從來參加することの出來なかつた生活の範圍と、從業の機會とを發見せしむべき敎育である。是ゞ所謂『人生の爲の敎育』、詳言すれば『常に生々發展して其の範圍を擴張し、其の意義を深遠ならしむる人生の爲の敎育』である。

(一〇)新時代への準備

『マッシュー、アーノルド』は、敎育に關し有名なる定義を與へて、『敎化＝敎育＝とは從來思索し及び發見せられたる最善のものを知らしむることである』換言すれば、『完全の研究』といつて居る。是は勿論吾人に取て緊要な考へ方であるが、併しそれ丈では未だ充分とはいはれない。既に思索し發表せられたる最善のものを知り得たるのみにて、吾人が實現しうべき最善の行動に之を導かず、吾人の考へ樂しむ事物を實行に移して、人類生活の活舞臺に躍動せしむるにあらざれば、未だ敎育の眞義に徹底したるものとはいはれない。されば敎化が單に過去に於ける最善の思想及論議を知るに止まるのみならば、そは唯ホンの一時のお座なりの間に合はせに過ぎない。吾人は更に全力を盡して過去の時代に考察し發表せられたる最善のものを知得せんことを努め、而してそは同時に將來、より高尚に、考へ悟り歌ひ出すべき何物かを持來すべき新時代の準備をなしつゝあることを信ぜんとするものである從て今後吾人に關して『彼は過去の人々の偉大なる努力の結果を知り及發表せられたりし總べての事項に通曉したるも、將來吾人に繼いで來るべき人々のために高尚なる思想、麗しき詩情を吹込むことには何等の貢献をもなし得なかつた』との譏を

投げしむることがあつてはならない。抑々健全なる文明の標徴の一は、社會發達の各時期に於て、其次代の爲に開展し得べき題目を提供し、又曾て考へ及び發表せられたるよりも更に眞實の思想を考へ、賢明の議論を發表すべく、將來の人々に助言を與ふる大成功の遺産を後世に殘すことである。されば『人生の爲の教育』は既に考へ及び發表せられたる最善のものを知らんとするに止まらず、知ると同時に之を行動に移し、依て以て現在の時代を裨益すると共に、更に大思想大議論を生み出す素地となるべき、前人の未だ思ひ及ばざりし事項を持來さんとする後の時代の爲に、準備すべき事を要求するものである。

されば歴史を皮想的に觀察したのでは、深い教訓は得らるゝものではない。若しそれ吾人一度彼の往昔藝術、文學及哲學が盛に卓越したる作品を、世に出しつゝありし時代を回顧すれば、幾多の人士がその周圍又は背後にありて、偉大なる事跡を敢行し、以て傑出したる思想を生ずる基礎を横たへし、生氣潑溂たる活動の場面が展開されて居つた事を思ひ浮ぶるであらう。

『カーライル』は言ふ『眞に事物を知らんとする最善の方法は、之を行ふふの一途にあり』と。然り智識が熟練となる時は、同時に又清新にして高尚なる智識を生み出す源泉となり、既に果されたる任務は更に新たなる併し一層困難にして之が遂行に一段の努力を要すべき價値ある任務を開拓するものでなければならない。

（一一）生活即藝術

余は曩きに藝術は行動の内に存する智識なりと斷言した。元來藝術とは何事にあれ、爲さるべき物事を最も賢明に爲す方法に對して吾人の與へたる名稱に外ならない、されば須らく能ふ限り賢明に事を行へ。此の如くにして始めて吾人は總べての美術創作の根柢となるべき生長點に立つものと云ふ事が出事る。然るに世には往々美術の進歩を圖らんが爲には、社會の日常普通の生業、例へば大都市に見るが如き

各種の産業、事務に背を向けて、産業文明の勞苦、喧囂、混雜に煩はさることなく靜かに藝術の秘奥を探究し得べき浮世を離れた別世界に身を置かなければならぬと考へる向がないでもない。併し余は此點に關しては寧ろ別種の見解を取つて、事務の煩劇、産業の勞苦、職業の苦悶等、現實社會に當面する勞苦を有の儘に取入れ、而して之に忍從し之に肉薄し、且其の最善を盡して之を爲すべき最も賢明なる方法を發見し、凡そ吾人の到達し得べき卓越したる最高の標準に迄其の向上を圖るべき事を主張するものである。此の如くにして始めて吾人の見出し得べき勝れたるあらゆる方途を辿りて、美術の眞の振興に資する最も有力なる手段を講じたりと言ひ得ると思ふ。要するに藝術は必ず社會日常の仕事の中より生れ出で、而して其の仕事本來の美點を發揮して之を裝はんとする努力に基きて發達するものでなければならぬ

(一二)見直した産業文明

上來述べたる意見が、動もすれば世人をして空想に馳せ、的なきに矢を放つ空論に過ぎざるものなるかの如き感を抱かしめざらんが爲に、現に實際行れてゐる新成人勞働者教育の事例の一二を次に紹介しよう。

最近余は米國視察中、同國人が教育界に於て、大膽にして聰明なる新實驗を試みつゝあることに一驚を喫した次第であるが、中にも『バージニア』の『ハムプトン』學院=舊友『フランシス、ピー、ボディー』博士が同學院の沿革を詳述したことがある。=及び『ペンシルバニヤ』の『バーンス』學院の二大會館は最も注意すべきものであつた。兩館は『コロムビヤ』の『ジョン、デューキィ』教授が最先に之を唱導し、新活教育の先頭に立て遂に教育哲學に迄發達せしめたる『人生の爲の教育』の原理に基づきて設立されたものである。即ち兩館の背景をなして居る觀念は、現代人の教育に對する重要なる部面は、社會日常の作業の內部に在りて、之を其外部に求むべからざることである。卽ち閑暇時に於ける享樂にのみ役立つが如き教養を與ふることなく

勞働時間に於て爲すべき作業を立派に遂行し得る樣に訓練することこそ最も有効に人間を敎育したと言はるべきである。換言すれば人生の根本事實として、各人が生活の資料を得、社會組織に於ける一定の職業を果さゞるべからざることを認め、而して敎育の目的は美術上の作品を作り出すと同樣の態度を以て、賢明に完全に自己の職業を遂行する覺悟を有し、且其遂行上最も勝れたる方法を示す道を見出し得る樣に訓練せんことを期するに在り、卽ち商賈、職工、手藝等吾人が生活の資を得んが爲の實際的手段は、同時に精神及品性の最高機能を發達せしむる所以であると考へることである。されば此意味に於ける敎育組織に在りては、生活資料獲得の行動と精神的啓發敎養の事業とは、畢竟其の根本を一にするものであつて、決して二種の特異の無關係なる行動として認めらるべきものではない。

是等の運動に從事する人々の信念は、牢乎として殆んど神秘的な熱心さを保つてゐる。卽ち純正なる敎育方法の實行に依て現代產業文明の事業全體が、彼の人類を荒廢せしむる責道具たる地位より解放せられて、寧ろ其の理想的向上發展を促す敎化作用に置き換へ得らるべきものなることを確信して居るのである。

『ビーボドイー』博士は此點に就て頗る感傷的な一挿話を物語つて呉れた。博士が曾て一職工が生活の殆んど大部分を大量生產機械の單なる齒車の一小齒に過ぎざるものとして暮し來つた最後の臨終に立會つた時に、其の職工は僅に口を開いて博士に訴へていふ。『私が今死んで行くなどとは、ドウかお話し下さるな。實は私は既に三十年この方死に通して來たのです』云々。此悲慘なる恐るべき產業文明の弊害こそ、吾人新時代の成人勞働敎育者が力戰奮鬪して之を改善修補せんとする點であつて、固より其の事業は現下最も緊切なるにも不拘、極めて困難な大事業ではあらうけれ共、必ずや最後の勝利を贏ち得べき確乎たる信念の下に勇往邁進すべきである。

(一三)生活愛の鼓吹

再び『ビーボディー』博士の有益なる言を引用すれば、『世人は動もすれば日常普通の作業に熱心精勵する時には、之が爲に精神的の問題に對し興味を失ひて、單なる能率高き一種の機械たるに終り、且過去に於て考へ及び述べられたる最善の事物を知らしめんとする敎化作用に全く無關心となるであらうと考へるものがある。然れ共事實は全く之と反して、實務上の熟練を發達せしめるに最も優れたる學生は、殆んど例外なく藝術、文學、哲學等の問題につきても、最も理解し易く且つ其の學習に最も熱心なることが發見される』ものである。されば須く學生の最も密接なる關係を有する生活上の實務其物に對する眞の熱愛を鼓吹せよ。然らば直に偏頗なく廣く人生の各方面に涉りて優越さを保ち得べき方面の追求に發展することが出來るであらう。

(一四)生活の藝術化

最後に『デューキイ』敎授が、最近『バーンス』學院財團の會員に語れる一節を擧げて參考に供しよう。

『當學院は、人生の必要なる事務及商工業等の日常すべての行動は、吾人が單に手や足や頭腦の一小部分のみを提供するに止まらず、其の感情、情操のすべてを擧げて、換言すれば全身全靈を事業其物に捧ぐることより成り立つものであつて於是乎始めて事業其物が眞に卓越した高尙なる地位を保ち、之に從ふ人々の愉快の源泉となるべきものであると云ふ高遠深奧なる確信に基づきて設置されたものである。卽ち吾人の經營する敎育事業は、之に參加する人々に對して、金錢的物質的の報償を與ふるよりは、精神心靈の存養發達を期せんことを目的とする。思ふに藝術は單に人生の區々たる一小技に止まらずして、實に人間の全活動に深き根本的の意義を與へ、之を最も賢明に表現せんとする偉大なる事業である。此の立場より藝術を眺めて之と社會日常の事業とを密接に連絡せしむることは、現代

に於ける教育上の成功の最も偉大なるものと謂はなければならない。かくて其影響は更に廣く教育組織全體を見直して之が改善を促し、遂に最も價値あり、有利なる社會改造の結果を招徠することを得るに至るであらう」云々。

(一五)新成人勞働者教育の基調

之を要するに吾人の主張する成人勞働者教育運動の基礎たる原理は、(1)人生の智識より人生々活の熟練への轉換。(2)教育と勞働との提携。(3)藝術と作業との連絡。(4)生活の資料を獲得する行動と精神を存養する行動とは、本來一體にして不可分なることとの四つである。一言にして之を約すれば曰く、『人生の爲の教育』"Education for Life".

協調會教務課發行勞働者教育資料

勞働者教育の組織と經營 No.1
成人勞働者教育の主張 No.2
新成人勞働者教育論 No.3
獨逸民衆大學の精神 No.4

大正十五年三月十四日印刷
大正十五年三月十七日發行

編輯兼發行者　東京市芝區芝公園六號地　惣田太郎吉

發行所　財團法人協調會
東京市本郷區駒込坂下町一三六番地

印刷者　山田末一郎
東京市本郷區駒込坂下町一三六番地

印刷所　明立印刷株式會社
電話小石川五五六〇

終